



今回は、これまでの議員生活を通じ、皆さんからいただいたまちづくりに関するご要望と、それに関連する黒崎ゆういちの取り組み内容についてピックアップしました。皆さんが住むまちの課題を、ぜひ今後もお聞かせください。

黒崎ゆういちが掲げる6つの政策

「あなたが生き」 「あなたが育ち」 「みんなが繋がる」 港区をつくる!

- ・シニア世代が生きがいを持って生涯活躍できる場・機会をつくる
- ・多様性を尊重するハード・ソフトのバリアフリーを実現する
- ・1人1人の子供の強みを伸ばし、健全な子供たちを育成する機会を学校内外に作る
- ・子育て世代が安心して働き続けられる職住環境を整備する
- ・暮らす人が感動や一体感を味わえるアイデンティティを醸成する
- ・暮らす人・働く人・訪れる人・学ぶ人・港区内のすべての地域が繋がる拠点をつくる



大きな進化を続ける街、「港南」の皆さんに “こんな港南になってほしい”という思いをお聞きしました

充実した環境を持つ公立学校が魅力の港南 “誰もがスポーツを楽しめるまち”であってほしい

公立学校が充実していることも港南地区の魅力だと思います。公立学校には、その子どもが生まれ育った地域のネットワークを生かしながら子どもたちの成長を見守れる利点がありますし、スポーツを通じた仲間作りにも学校の存在は重要です。昨今、学生たちのスポーツはクラブチーム化が進んでいますが、幼少期にはできるだけ

広くいろいろなスポーツに親しむ機会も作ってやりたいと感じるからです。青山小学校では、放課後に日替わりでいろいろなスポーツが低価格で楽しめる「部活動」と呼ばれる制度があると聞きました。これからも港南地区の子どもたちが存分にスポーツに親しめるよう、港南地区でも制度作りをお願いします。

地域スポーツや部活動を「オール港区」として捉え、青山地区はラグビー、芝浦地区はテニス、港南地区はサッカーなど、現在すでにその地区で人気のあるスポーツを生かして幼児から大人まで楽しめる環境を集中的に作って行くことが理想ではないかと考えています。放課後に中学校をつなぐバスを運行して部活を集中化するなどさまざまな解決策も考えられます。アフタースクールの充実が非常に重要だという点も認識しました。今後のまちづくりにぜひ取り組んでいきたいです。

運河や大学のキャンパスで自然を感じる港南に “森で息抜きできるまち”になってほしい

港南地区は、広い運河や東京海洋大学のキャンパスがあるおかげで、都心にありながら自然を感じられることも魅力だと感じています。ただ、できればもっと「森」と呼べるような自然のあふ

れる場所がほしいです。緑の中で子どもも大人もリラックスできるようなサードプレイスが作れないでしょうか。そうした場所はコミュニティ作りにも欠かせない場所でもあると思います。

運河という点では、御橋橋のライトアップが完了し、2020年度には浜路橋も実施予定です。今も港南地区は便利でありながら緑も多い場所で、品川新駅の誕生後もその点は変わりません。今後の開発の中でも、にぎわいがありながら緑あるまちが実現できるよう、要望していきます。



JR東日本提供

文化や職業などたくさんの体験ができる “新しい学びができるまち”になってほしい

港南地区には、文化やスポーツ、職業やボランティアなどいろいろな体験がたくさんできる、選択肢があるまちになってほしいです。子どもたちには自分がやりたいことを見つけてから一

生懸命に勉強してほしいんです。新しい学びをこの地区から発信し、この地区で育って良かったと将来思えるような新しいしくみをぜひ取り入れてください。

常日頃、子どもたちが大人になってからも生まれ育った地元に住み続けたいと思うような施策とは何かを考えています。さまざまな文化を発信するのはやはり活動する場所が必要ですし、アクティブラーニングも、民間企業が関わることでさまざまな体験を提供できる可能性が高まります。1度だけでなく毎年継続できるしくみになるようしくみ作りを継続的に探っていきます。

住む人と働く人両方のパワーがある場所だからこそ “歩いて楽しいまち”になってほしい

港南地区は「歴史ある人口島」とも言える場所です。だったら、現代のニーズに合わせて住む人・働く人のために徹底的に作り込んで、「歩く楽しさ」のあるまちにしてほしい。例えばリアルとネットを融合させた、楽しく買い物ができる商店街。そこにはクラウドファンディングを通してこの地域で若者がトライ&エラーできるようなしくみもその中に取り入れてほしいです。すでにある施設も、ぜひもっ

と地域に生かしてください。例えば東京食肉市場には「肉」を楽しめる場外がほしいし、船着き場としてももっと活用してほしいです。住民目線で言うと、子どものうちから危機感を察知できる能力も得られるような、自己責任でたき火ができたりボール遊びができる「何も無いけど、なんでもできる公園」もほしいです。ぜひ、歩いて楽しい、活気あるまちとして港南の魅力を高めてください。

港南地区は住民の数倍の昼間人口もいる場所でもあるため、そのパワーを生かすことも課題のひとつだと考えています。関係者人口の多さを生かしながら、より魅力的なまちづくりを目指します。

品川駅や品川新駅の再開発など、大規模な再開発の中でなかなか伝わりにくい住民の生の声や要望を開発側に伝えることも議員の役割のひとつだと考えています。今後も港区と民間と住民の間を取り持つ橋渡し役として、今後も全力で議員活動を進めます!